

# 第6学年 図画工作科学習指導案

第6学年 25名

指導者 川真田 心

授業場 6年教室

## 1 題材名 白黒の世界に明かりをつけて <A表現(2)絵に表す・B鑑賞>

### 2 題材設定の理由

本題材は、子供が自分の好きなお話の一場面を想像し、木版画で表現した白黒の世界に絵の具で色を付け表す活動である。木版画は彫刻刀を使って版木を彫り、インクをつけて写し取り白黒で表現することで、簡素で明快な表現ができる。また、自分が気に入ったお話の一場面を豊かに想像し、表したい場面の構図を考え決定していくことも大切な活動となる。彫りの段階では自分の表したいテーマに向かって、彫刻刀の違いによる表し方を考えながら、楽しく彫り進めることができる。例えば、「丸刀を使って柔らかく」「三角刀を使って鋭く」など意図に合わせた様々な表現を工夫することができる。刷りの段階では、水彩画などの絵画表現と違って何枚も同じ表現をつくり出すことが簡単にできる。そして、今回は刷り上がった和紙の裏側から色を付けるという活動を取り入れることとした。そうすることで、白黒の世界に変化を与えるだけでなく、自らのイメージがより明確に表現できると考えた。

本学級の児童は、明るく素直で図画工作科の授業を楽しみにしている。進んで絵に表したり、形に表したりすることができる。しかし、表したいテーマはあるものの、伝えたいことをうまく表すことが苦手な子供も多い。そこで、自分の思いが伝わりやすいようにお話の好きな場面を表すことをテーマとした。加えて、水彩画などの表現とは違った、「版に表す」という平面技法の楽しさも十分に味わわせたいと考えた。

指導に当たっては、事前にアートタイムを活用して彫刻刀の特徴を生かした表現を試しておく。また、版画の表現に親しむため様々な参考作品を用意したい。彫刻刀の違いを生かした作品などを紹介し、彫刻刀での表現の特徴に気付かせたい。また、子供のイメージを膨らませるために、アイデアスケッチをしたり、友達表現を見せ合ったりする中で、楽しく彫り進めてほしいと考えている。仕上げの手順としては刷り上がった作品に何度か着色できるように、同じ版で複数枚を刷っておく。また、友達と刷り上がった作品を見せ合うことで、つくった作品のよさや面白さをじっくり味わわせたい。白と黒の表現の作品に絵の具で着色する際は、自分のもつイメージや意図がよりよく伝わるようにする。これまでの経験で、子供たちの木版画の表現は白と黒のイメージが強いため、色を付けるという新しい方法を用いることで白黒の世界に明かりをつけ、新しい木版画の世界に夢中になってほしいと考え、本題材を設定した。

### 3 題材の目標

- 木版画による表現の特徴を理解し、木版画で表す楽しさを味わい、関心をもって取り組むことができる。(造形への関心・意欲・態度)
- 自分の表したい「お話」の場面を木版画でどのように表すかを考えて彫り方や、構図などを考えることができる。(発想や構想の能力)
- 自分の表したいイメージを基に彫りの効果を確認めながら版で表す。そして、刷り上がった白黒の作品に合った着色をすることができる。(創造的な技能)
- 作品を見せ合い、表したかったことなどを伝え合う中で表現の意図や特徴をとらえ、白地の作品の良さや面白さを味わうことができる。(鑑賞の能力)

#### 4 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
木版画による表現の特徴を理解し、木版画で表す楽しさを味わい、関心をもって取り組もうとしている。	自分の思いを木版画でどのように表すかをイメージし彫りや刷り、着色などを考えている。	自分のイメージを基に彫りや刷りの効果を確かめながら表し、工夫して着色している。	作品を見せ合い、表したかったことなどを伝え合い、表現の意図や特徴をとらえ、それぞれの作品のよさや面白さを味わっている。

#### 5 指導と評価の計画（全9時間 本時8／9）

時間	学習活動	評価規準・評価方法			
		造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第一次 (二時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が表現したいお話の一場面を想像して表したいものを考える。</li> <li>版表現の製作手順を確認し、表したいお話の一場面のアイデアスケッチや下絵をかく。</li> </ul>	<p>木版画による表現の特徴を理解し、木版画で表す楽しさを味わい、関心をもって取り組もうとしている。</p> <p>(観察・発言)</p>	<p>自分の思いを木版画でどのように表すかを考えて彫りを工夫し、構図や白黒のバランスを考え下絵をかこうとする。</p> <p>(観察・対話・アイデアスケッチや下絵)</p>		
第二次 (六時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>製作の見通しをもち、彫刻刀を効果的に使い版木を彫る。</li> <li>製作の見通しをもち、彫りの効果を確かめながら刷る。</li> </ul>		<p>自分の思いを木版画でどのように表すかを考えて彫りを工夫し、構図や白黒のバランスを考えている。</p> <p>(観察・対話・表現)</p>	<p>自分のイメージを基に彫りの効果を確かめながら工夫して版に表している。</p> <p>(観察・対話・発言・表現)</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>刷り上がった作品に着色をして仕上げる。</li> </ul> <p>(本時8／9)</p>			<p>自分のイメージを基に、色の効果を確かめながら工夫して着色している。</p> <p>(観察・対話・発言・表現)</p>	

第三次 (二時間)	○ 作品を鑑賞し合い、お互いの工夫などを話し合ったり読み取ったりする。				作品を見せ合い、表したかったことなどを伝え合い、表現の意図や特徴をとらえ、それぞれの作品のよさや面白さを味わっている。 (観察・発言・ワークシート)
--------------	-------------------------------------	--	--	--	---

## 6 本時

### (1) 目標

自分の表したい世界やイメージを基に、白黒で刷られた作品に色の効果を考えながら着色することができる。

### (2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意事項	学習活動における 具体の評価規準	評価 方法
5分	1 本時の学習活動のめあてをつかみ、活動に意欲をもつ。	○ 前時の学習を振り返り、本時の活動のめあてを確認させる。 ○ にじみやぼかしなど着色の説明をする。		
35分	2 色の効果や全体の雰囲気を考え、自分の表したいイメージがよりよく表れるように着色する。	○ 色の効果を想像しやすいように、参考作品を見せる。 ○ 絵の具の水加減の調節の仕方や、にじみ・ぼかしの仕方を見せたり、試し塗りをさせたりする。 ○ 子供の着色のよさや工夫を見取り賞賛する。 ○ 版で表した白い部分を生かしながら着色させる。	自分のイメージを基に彫りや刷りの効果を確認しながら表し、工夫して着色している。 <b>【創造的な技能】</b>	観察 対話 発言 表現
5分	3 本時の学習を振り返り、次時への意欲をもつ。	○ 自分の作品を振り返り、次時の鑑賞活動への意欲を高める。		

### (3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のイメージを基に彫りや刷りの効果を確認しながら表し、工夫して着色している。</li> </ul>
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供の思いに共感するとともに、様々な表現方法や他の児童の作品を紹介する。</li> <li>絵の具の水加減の調節の仕方や、にじみ・ぼかしの仕方を見せたり、試し塗りをさせたりする。</li> <li>版で表した白い部分を生かしながら着色している作品を見せる。</li> </ul>